

UNISEC Workshop 2003

at Hokkaido Institute of Technology



第2回ワークショップ開催。

2003年12月13日と14日の両日に北海道手稲にある北海道工大でUNISEC2度目のワークショップが行われました。積もった雪の残る会場に日本中から128人の人たちが集まりました。

講演は、CubeSatやロケット開発など各大学や団体の一年間の活動報告が、2日間にわたって行われました。



講演では、単なる発表だけではなく、同じような研究をしている他の大学と情報交換をしたり、参加された専門家の方からアドバイスを受けたり、参加者同士の交流がさかんにおこなわれました。



招待講演ではJAXA(宇宙航空研究開発機構)の中川敬三さんと、中村博行さんに、JAXAで実際に使われている衛星設計支援システムやロケットの打ち上げ安全対策などについて伺いました。



交流が多い、といえ今回のワークショップもまさに宇宙を目指す人たちがお互いを助け合い高めあえるような企画がいっぱいでした。

1日目の夜の懇親会で交流を深めた後、2日目の昼ではUNISON会議が行われ、学生同士がこれからのUNISONのありかたについて、話し合いました。

そして、2日目の午後は、グループ討論が行われました。

グループ討論では、参加者がそれぞれ「周波数問題」、「地上局ネットワーク」、「衛星の商業利用」、「ロケット打ち上げ安全基準」、「板倉コンペ」の議題を持つグループの中から自由に参加したいグループを選び、他の大学や団体、またアドバイザーの専門家の方たちとの話し合いを通じて、助け合って問題を解決していくことを目的としています。

1つの大学では解決できない大きな問題を、大学や団体同士が助け合うことで解決していこうというUNISECならではのイベントといえるでしょう。



詳しいワークショップの内容について、ウェブで紹介しています
各団体の代表者の自己紹介ムービーもあります。

<http://www.unisek.jp/ws2003/>



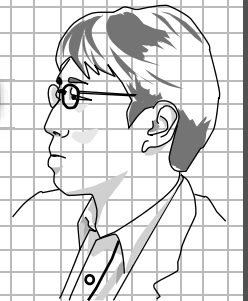
Working Groups

現在、UNISECでは3つのワーキンググループが活動をスタートしており、新ワーキンググループも続々と企画中です。

ワーキンググループでは、学生のほかに、関心や知識をお持ちの一般会員の皆様のご参加もお待ちしております。

Remote Sensing

リモートセンシング



赤松幸生さん
国際航業(株)

超小型衛星も実際に宇宙で運用されるようになり、実利用に近い将来の課題となることが予見されます。

そこで、リモセン利用WGでは、近い将来の実現が見込まれる超小型衛星のリモートセンシングを対象に検討し、斬新で魅力的な実利用ミッションを発掘し社会にアピールすることで、超小型衛星の将来を切り開くことを目指しています。このような実社会における新たな利用を創造するには、柔軟な発想をもつ学生とさまざまな経験を持つ社会人が接点を持ち、力をあわせて未知の領域を切り開くことが不可欠と思います。

UNISECのNPO会員と学生会員の方で、UNISECの自助・互恵精神に則り、主体的かつ前向きに活動頂ける方のご参加を期待しています！

Frequency

周波数問題



醍醐加奈子さん
日本大学修士2年

大学が打上げる人工衛星が使用する通信周波数の申請や利用について検討するワーキンググループです。

周波数の申請や使用は、無線に従事されている方をはじめ、諸官庁や専門家など多くの方とかわりを持ちます。私達は皆様と良い関係を築き、秩序ある開発・運用を目指しています。そのために必要な知識を補っていくためにこのワーキンググループを通して勉強しています。皆様からのアドバイスやご指摘がさらにこのワーキンググループの活性につながりますので、ぜひご協力お願いいたします。



UNISEC秋のイベント「板倉コンペ」の実行委員会として、企画・広報・運営を行います。11月末に群馬県板倉町で行う予定の板倉コンペは、カムバックコンペといって、気球からCanSat(トレーニング用衛星)を放出し、それが自律的にパラフォイルなどを操縦して、目的地にいか

詳細は <http://www.unisek.jp/member/wg.html>

参加ご希望の方は
メールでどうぞ

リモートセンシング: unisek-rimosen-owner@egroups.co.jp
周波数問題: unisek_freqwg-owner@egroups.co.jp
板倉コンペ: unisek-itakura-owner@egroups.co.jp